

no.17

# CLCからしだね書店便り



5 2022  
May

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

# 読書

感想本



## 『LGBTとキリスト教 20人のストーリー』

平良愛香 監修  
日本キリスト教団出版局 2200円(税込)



本書はLGBT当事者を中心とした20人の体験記と、たくさんさんのコラムとからなっています。性的マイノリティを表す言葉はいろいろありますが、タイトルの「LGBT」は、「社会の中で生きづらさを押し付けられている性的マイノリティ全体を指して」(234頁)いるとのことです。

20人にはそれぞれの性自認や性的指向があり、さらに生きてきた環境や年齢も異なるので、それぞれの生きづらさが異なります。重度の障害がある、高齢である、地方に住んでいる、といった事情が、その人の生活や人生を特殊なものにします。そうした事情の中でも、特に「キリスト教とかかわりがある」ということが、生きづらさを増す大きな要因になり得るといいうことが、多くの執筆者によって語られています。



「隣人を自分のように愛しなさい」という教えにもかわらず、キリスト教会は多くの個人を傷つけてきました。そこで忘れられてきたのは、「愛しなさい」というイエスの教えが命令であると同時に問いかけでもあるということではないでしょうか。「愛しなさい」という命令を実行するには、「愛するとはどういうことか」「隣人を見過ごしていないか」といったことを常に自分に向かって問い続けなければなりません。なぜなら、人は今まで持っていた認識の枠組みや常識に縛られており、そこに収まらない人の存在に気づくのが困難だからです。そのような認識の枠組みを取り払うには、人から自分に向けられる視線に気づく必要がある

ります。そのような視線を意識することなく、一方的に自分が何かを与えたり教えたりする態度を「愛する」とことと勘違いし、人を傷つけてきたのでしょうか。

「LGBTの牧師を招聘した教会」の章では、トランスジェンダー女性の牧師と、「誰をも分け隔てしない開かれた教会」を目指す教会の話が紹介されています。教会側は、「牧師がLGBTだと意識したことはない。当事者であることはわかっています。招聘のときもそれが問題になることはなかったし、そもそも問題視すらされませんでした」(128頁)、「どんなセクシャル리티の人でも受け入れたらええやないかと思うから、あえてLGBTについて勉強しようとも思わへん」(133頁)

からしだね通信 2021年10・12月号でLGBTQについて語っています。読んでいただければ幸いです^^



からしだね通信 2021年12月号 からしだね通信 2021年10月号



と言います。それに対し編集部は、「牧師がLGBT当事者であることをまったく問題視していない、それ自体は素晴らしいことだ。しかし一方で、それは問題意識に至っていない側面だと言えるのかもしれない」(133頁)と指摘します。それを受けて監修者の平良愛香さんは、「差別は『優しさ』だけでは克服できません。『知識』が必要になってきます。『そんなこと問題ないよ』ではなく、学んだうえで、怒り、悲しみ、傷みを共に受け止めてもらえるとうれしいな、と感じます」(135頁)と言います。

マイノリティの痛みや感じていることに気づくためには、ただ他者の存在を受身的に承認するのではなく、まして他者を教化したり矯正するのでもなく、意識的に他者の視線を感じ取るうとする態度が必要なのではないでしょうか。本書に出てくる20人のストーリーを読むことが、そのような意識をもつきっかけになると思います。

©LCCからしだね書店員 ©



京都のかたすみから見えた風景(3)

## いじめる理由

京都の真ん中にある小さな小学校。

私と正美ちゃんはそこで出会った。

新しいランドセルに、期待と、少しばかりの不安をつめて、正美ちゃんと私と、そして六十名ばかりの一年生たちが、「学校」という名のフィールドを走り始めた。

「いじめ」という言葉が、まださほど深刻に受け止められていなかった時代。

クラスのみんなは正美ちゃんを嫌っていた。私も正美ちゃんを嫌った。たった六歳の子もたちが、たった六歳の女の子をいじめ始めたのだ。

男の子たちは彼女に近寄ること、彼女の持ち物に触れることを避けて、意地悪な言葉を投げつけた。そして時々、先生に叱られた。女の子たちは、先生に叱られることもなく、黙ってずっと、彼女を輪の外に置き去りにした。学年が進み、クラスが替わり、担任の先生が替わっても、正美ちゃんはいつもひとりぼっちだった。

四年生になったある日の学級会のこと。

「どうして正美ちゃんと仲良くできないのか、話し合いましょっ」

泣きそうになった正美ちゃんが、ひとりおろおろするのをながめながら、小学生のわたしは、いつも少しばかり気の毒そうな顔をして、「かわいそうやんな」と口で言っていて、そのうえで、ぜったいに彼女と手をつなごうとはしなかった。

大人になった私は、「子どもだったわたし」について、こんな解説や分析を試みる。学校という閉鎖空間の中で、いじめられない側に自分の居場所がほしかったのだと。小さいながらも、自分を守ろうとしていたのだと。

それからこんな言い訳もしてみる。判断力の未熟な子どもたちに、ひどい指導をした先生こそ問題だったのだと。

だがー。

大人になった弱い私の逃げ道の前に立ちはだかつて、「でもね、それだけではなかったんだよ」と、子どもだったわたしは、とことん言い張る。

「わたしはあるとき、おろおろする正美ちゃんを見て、い気分だったんだよ、楽しかったんだよ、おもしろがってたんだよ。それがいちばんの、いじめる理由だったんだよ」

私は今、障がい者支援の仕事をしている。

CLCからしだね書店 店長 坂岡恵



と、担任の先生が言った。

「正美ちゃんが嫌いな人、手をあげなさい」

無神経といえはあまりにも無神経なうながしだったが、私を含めてクラスのひとつが、おすおすと手をあげた。

「どうして嫌いなのかな？一人ずつ言ってみよう」

いつも同じ服を着ているから。なれなれしいから。髪の毛が不潔そうだから。しゃべり方がのろいから。

今思えばどうでもよいようなことをあげ連ねながら、私たちは疑いもなく、正美ちゃんにこそいじめられる原因があるのだと信じていた。

そして正美ちゃん自身もまた、心無い級友たちの発言を、唇をかみしめながら、全身で聞いていた。

「わたしの悪いところ、なんでも言ってみてね、わたし、なおすから。がんばって、みんなに好かれるようになわたしになるからー」

そんな声が無言のうちに聞こえてくるようだった。

なんのフォロもないままに、最悪の学級会は終わった。正美ちゃんはいかわらずひとりぼっちだったし、私たちはいじめることをやめられなかった。



「神様の導きで」なんて、軽々には言えない。いじめる側にいた意地悪でなさない私が、困っている人の側で働いていること自体、なんという矛盾か、と思う。自分が望んで就いた仕事でもなく、あえて言うなら、人生の成り行きのままにこんな仕事をしている。ちょっとした後ろめたさと、後悔を覚えながら。そして思う。こんなことがゆるされていいんだろうかと。

そんなことを思いめぐらしているうちに、ふと気づいた。いじめる側にいた子ども頃のわたしと、困っている人の側に立つ大人になった私と、その深い間の谷間に橋をかけるようにして、「あのひと」が、いてくださったのか。

目を上げると、小さいわたしが、十字架の下に両足を広げて踏ん張りながら、一生懸命、傷だらけの「あのひと」を指さしている。

「だから、胸をはって、がんばって、せいっぱいやるしかないんだよー」

小さいわたしに叱咤されながら、小さいわたしといっしょに、私もまた踏ん張ってみよう。

いじめる理由を、内に抱えながらも。





たばこのトラブル、周囲の人間関係のトラブル続きで、自分にも、他者にも、社会にも信頼を喪失してしまったSさん。優しいと思っていた友人や知人から、「よくわからない」理由で殴られてしまったSさん。彼女にあるものを利用できるだけ利用し、思うように利用できないと、ポイッと放り出す。彼女を取り巻く世界はなんと厳しい、冷たい世界なんだろうか…。そのようにしか思えない状況でした。

## Sさんの毎日

Sさんを警察に迎えに行ったときはパニック状態で、自宅が荒れ果て生活できる状態ではありませんでした。そのため、A病院に入院し、しばらく体調と生活リズムを立て直すことになりました。

Sさんは入院するときに「自分は病気とは違う。知らん人からまれただけや！からんだ奴らが悪いのに何で自分が入院しなあかんねん！」と反対しましたが、後見人さんは、彼女を何とか周囲のごたごたから守りたいこと、その間に荒れ果てた環境を立て直すから、安全なところで待っていてほしいということを根気強く説得してくれました。しぶしぶではありましたが、入院に同意をしてくれました。

入院中に必要な衣類や残っている薬を届けるため、許可をもらって彼女の部屋に行きました。ゴミが散乱し、もはや誰の所持品かもわからない荷物が放置されていました。しかし、彼女が大切にしていた、テレビやCDラジカセ、その他の電化製品がありません。誰が何の目的のためにこの部屋に入りに来たのか…。誰か、彼女のことを「利用」するのではなく、心配し、大切に思ってくれる人はいなかったのか…？

洗濯機もなぜか壊れ、清潔な衣服はほとんどありません。とりあえず、着られそうな衣服をかき集め、彼女のものにもっていきましました。

## 彼女を大切に思う「友人」が!!!

入院をして1か月が過ぎたころ、彼女が「友人」と言っていた男性から、関係者に連絡が入りました。「彼女に渡してほしいものがある」とのこと。

彼は、彼女の汚れた衣服を持ち帰り、洗濯をし、きれいにたたんで「Sちゃんに届けてほしい」と持ってきました。よれよれの作業着を着た、仕事でくたびれた様子の彼と少し話げできました。たどたどしくはありましたが、彼がSさんを大切に思っていたことがわかりました。

「Sちゃんに元気になってほしい。今度退院したら、もう怖い思いをしないようにしてあげてほしい」穏やかな口調でそう話してくれました。彼自身のおかれている状況もまた、過酷でした。これから向き合っていくかといけない、数々の問題を抱えていました。彼自身が大変な中で、彼女の関係者にわざわざ洗濯ものを届けに来たのです。

彼女は誰からも大切にされていないわけではなかったんだ…。  
彼の存在によって少し救われたような思いがしました。

本筋とは離れますが、彼女の支援者の一人が、彼の過酷な状況に寄り添い、その後も彼のことを気遣いコンタクトを取り続けています。

## 住むところを喪ったSさん

Sさんの管理会社からは退去を促す書類が届きました。退去に関しては、病院や福祉の関係者は、あのままの環境にいつまでも、Sさんにとって好ましい環境ではないとの意見が多く、新しい住居を探すことになりました。今までのことを踏まえて、一人暮らしよりも、何かあったときに助けてもらえるグループホームの方がいいのではないかと意見でまとまり、Sさんにグループホームに入居することについてどう思うか尋ねました。Sさんは「たばこの吸えるところやったらかまへん。早く見つけて早く退院したい！」とのことでした。

しかし、Sさんのように、たばこを吸い続ける人が利用できるグループホームはほとんどありません。あっても空きがなく、いつまで待てばいいのかわからない状況でした。やみくもに入院が長引くのはいけないのですが、次の行先が見つけられませんが、京都だけでなく、滋賀や大阪などにもエリアを拡げて探しましたが、見つかりません。彼女が入居できるグループホームはないのかな…。少しあきらめかけていたその時に、関係者から連絡が入りました。

「和歌山のグループホームが前向きに入居を考えてくれるって!!!」

からした物館へは、障害のある方の生活全般の  
相談を受けたり、就労支援をしたりしています。

## 新しい生活に踏み出すかん

そのホームの担当者は彼女の経過をわかった上で、「一度彼女と直接、話をしてみよう」と言ってくれました。そして和歌山からはるばる彼女に会いに来てくれました。彼女の思いを聞きながら、丁寧にホームでの暮らしの説明をしてくれました。ネットとなっているたばこについても、頭から「喫煙はできない」というのではなく、最初は定められた喫煙場所で一日15本から、そして少しずつ減らしていこうと、彼女が何とか折り合いをつけられる条件を提案してくれました。

「15本やったら頑張れる」と、彼女は提示された条件をすんなりと受け入れました。とんとん拍子で退院が決まりました。退院当日、迎えにきてくれたホームの担当者に「〇〇さん、お世話になります」と言って、嬉しそうに車に乗り込んでいきました。彼女のかばんの中には、彼女のことを思っ友人が届けてくれた、洗濯をした清潔な衣服が入っていました。

トラブル続きで、自分も周囲の人も、支援者も信じるのが難しくなったかのような彼女。彼女が大切に思っている人から、その数が月後、彼女は笑顔で、新しい地での生活に向かい、車に乗り込んでいきました。



### 《お知らせ・1》 ◆聖化の再発見上・下巻 各2200円(税込)

英国ナザレン神学校 著  
大頭真一と焚き火を囲む仲間たち 訳 ◆

大頭先生は、CLCからしだね書店もお世話になっている牧師さんです。少数限定出版ですので、お早めに!! 上下巻セットで買うと、クリアファイルがおまけにつけてきます。(5/31まで) ホーリネス系の方も、どうぞご一読ください。

### 《お知らせ・2》

◆教会や保育園、幼稚園等で、定期刊行物や新刊書、用品等のご注文をある程度まとめて頂きましたら、月1回、無料の定期便でお届けします。

◆お近くにキリスト教書店が無い場合など、ご希望により、新刊書や用品(グッズ)の訪問販売を検討させて頂きます。ご相談ください。

◆再版発行のリクエストをお寄せください。絶版した良書で、再版してほしいものがありましたら、お知らせください。ある程度リクエストがまとまりましたら、出版社に情報提供したいと思います。

### 《お知らせ・4》

◆からしだねの  
◆おすすめ本「スポンサー」システム  
◆あなたのイチ押しの本を、  
◆店に置かせていただきます

「この本、ぜひ皆さんに読んでほしい」というあなたのおすすめ本。3か月間店頭においてみませんか? 残念ながら売れ残ってしまったら、ご自分で買い取ってお友達にプレゼント...という仕組みです。(書店に在庫をためこまず、皆さまの「推薦良書」を広くご紹介いただける。...そうならいいなと思っています。) 店内配置等については、当店に任せください。種類によっては、ご希望に沿えない場合もあります。

### 《お知らせ・3》

◆取次店から本が入荷されるのは、水曜日と金曜日の週2回です。お客様からの注文のタイミングや、取次店にも在庫がない場合など、お取り寄せに1週間以上かかってしまうこともあり、たいへん心苦しく思いますが、少し余裕をもってご注文いただくと助かります。お急ぎの場合はお知らせください。なるべく対処したいと存じます。キリスト教書店が町から消滅しないために、あえて書店に申し込んでくださっている皆様のお気持ちとお祈りに支えられていますことを、心より感謝いたします。

### 《お知らせ・5》

◆HPの  
◆古書のコーナーを  
◆ご利用ください  
◆「古書一覽リスト  
◆ページから検索  
◆できます」  
◆です

絶版の本もあります。おめあての本が見つかったら、ぜひご来店ください(念のため売れてしまっていないか電話かメールでご確認いただけましたらと思います)



お知らせ-6

◆おもしろい企画が満載の雑誌

# 季刊「Ministry」

ミニストリー

次世代の教会をゲンキにする  
応援ムック／キリスト新聞社

1950円（税込）

廃刊になってしまいました！  
とてもおもしろい企画が満載の雑誌でした。

書店（地下）に全50号おいてあります。閲覧可能です。

バックナンバーを購入することもできます。（貸し出しもOKです）



## 廃刊になったキリスト教雑誌「Ministryのバックナンバー」貸しす！

刊行時期	特集	その他	DVD
1 2009年春	教会を愉しむ	「劇刊記念特別対談」森本あかり×マクグラス「無神論の黄昏」	説教者「加藤常昭」
2 2009年夏	青年をどうする？	対談エルシー・マッキー×出村彰「牧師カルヴァンの実像」	説教者「徳善義和」
3 2009年秋	牧師館からのSOS	対談書山リカ×関谷直人「病める時代の牧師サバイバル指南」	説教者「小林和夫」
4 2010年冬	「説教力」を磨く	「信徒座談会」心にもこぼれを残してくれる説教者の生きざま	説教者「岩島忠彦」
5 2010年春	教会教育を問うー子どもと教会の未来	「ハタから見たキリスト教」阿刀田高×大塚野百合	説教者「神原康夫」
6 2010年夏	教会と女性	「ハタから見たキリスト教」幸澤玉	説教者「辻哲子」
7 2010年秋	みんなで昇機！	「ハタから見たキリスト教」八木谷涼子×藤掛明×平野克己	説教者「深田来生」
8 2011年冬	教会に生まれて一統、牧師館からのSOS	「ハタから見たキリスト教」天童荒太×石居基夫	説教者「雨宮慧」
9 2011年春	ボクたちのリアル現代牧師白書ーお仕事編	「ハタから見たキリスト教」切通理作×市川森一	説教者「上林順一郎」
10 2011年夏	いま、語るべき言葉 東日本大震災	「ハタから見たキリスト教」村上弘明	説教者「加藤博道」
11 2011年秋	ボクたちのリアルⅡ現代牧師白書ー生活編	「ハタから見たキリスト教」細谷亮太	説教者「吉村和雄」
12 2012年冬	これからの「礼拝」の話をしようー白熱教室@ミニストリー校	「ハタから見たキリスト教」奥田知志×上田紀行	「ハタから見たキリスト教」里中満智子
13 2012年春	もっと「ふしぎな」キリスト教 教会よ、応答せよ！！	「ハタから見たキリスト教」3/11後の宗教界を断る！！	「ハタから見たキリスト教」里中満智子
14 2012年夏	教会の中心で「宣教」を考える 21世紀に生きる宣教師たち他	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
15 2012年秋	「自死」と向き合う	震災1年対談 清家弘久×秋元雅彦	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
16 2013年春	禮物から考える教会論	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
17 2013年夏	となりの国のキリスト教 韓国篇	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
18 2013年秋	ダーリンは牧師さん	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
19 2014年冬	教会の本根	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
20 2014年春	信望力をはぐくむ	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
21 2014年夏	引退 そのとき、牧師と教会は	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
22 2014年秋	新しい賛美のカタチ	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
23 2015年冬	これからの「セイジ」の話をしよう	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
24 2015年春	通読と教会 今そこにあるキボウ	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
25 2015年夏	あれから70年 和解を求めて	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
26 2015年秋	高齢化なんか怖くない	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
27 2016年1月	ボクたちの失敗	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
28 2016年2月	教会のリーダーシップ論	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
29 2016年5月	となりの国のキリスト教 香港/中国編	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦
30 2016年8月	となりの国のキリスト教 香港/中国編	「ハタから見たキリスト教」大森理	「ハタから見たキリスト教」加賀乙彦



## 廃刊になったキリスト教雑誌「Ministryのバックナンバー」貸しす！

年11月	サブカルチャー宣教論	「ハタから見たキリスト教」野野博美	「ハタから見たキリスト教」野野博美
7年2月	教会を開くいま、『沈黙』を語る。	21世紀神学の扉「新約聖書の神学」辻学	21世紀神学の扉「新約聖書の神学」辻学
7年5月	あなたの知らない宗教改革	21世紀神学の扉「福音派の神学」藤本清	21世紀神学の扉「福音派の神学」藤本清
17年8月	牧師と司祭の育て方	21世紀神学の扉「宗教改革ルターへの神学」	21世紀神学の扉「宗教改革ルターへの神学」
17年11月	結婚をどうする？	「ハタから見たキリスト教」塚本晋也	「ハタから見たキリスト教」塚本晋也
18年2月	信望力を磨く「もっと教会を行きやすくする」ための処方箋	21世紀神学の扉「被災地の神学」	21世紀神学の扉「被災地の神学」
18年5月	会議に命を与えよう なぜウチの教会の会議はあんなに長いのか	「ハタから見たキリスト教」内田樹×坂本宗	「ハタから見たキリスト教」内田樹×坂本宗
18年8月	改めて「和解」を問う	21世紀神学の扉「中国の神学」	21世紀神学の扉「中国の神学」
18年11月	信仰と暴力「オウム事件」とは何だったのか	「ハタから見たキリスト教」たかまつな	「ハタから見たキリスト教」たかまつな
19年2月	10年目のリアル「雑談に何が起こったのか？」	21世紀神学の扉「カトリックの神学」香山リカ×賀来園一	21世紀神学の扉「カトリックの神学」香山リカ×賀来園一
19年5月	新連載開始	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
19年9月	ヒント満載	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
19年12月	課題は 教会を越えて	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2020年3月	危機の時代に「神学と福祉」	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2020年6月	コロナ禍と向き合う「新しい教会様式」の模索	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2020年秋	戦後75年平和を紡ぐ祈り	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2021年春	東日本大震災10年目の誓い	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2021年夏	来るべき「神学2.0」への挑戦	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2021年秋	危機の中のメディア	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清
2022年冬	コロナ後のセカイ、教会のミライ 実態アンケート分析	「ハタから見たキリスト教」藤本清	「ハタから見たキリスト教」藤本清

# 献本について お知らせ

たいへん申し訳ございませんが、  
送料をご負担いただけると  
ありがたいです。  
(受付できないものもありますので  
事前にお知らせください)

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本（多少、書き込み等があっても、大丈夫です）
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし（料理、健康、経済等）にかかわる本
- 5 小説（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）
- 6 漫画（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）

## 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒にいただきたいもの】

以下の内容を記入したメモ

①献本者のお名前②住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。⑥献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。お名前の掲載は困るという方は、お知らせください。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】

## 【献本感謝】

長谷川和雄様、石川了様、猪股裕子様、佐竹紀美子様、石井麻子様、山本三郎様、広沢真理子様、匿名様（順不同）

## 編集後記

◆あつという間に5月を迎えました。この書店だよりが出来あがるころ、CLCからしだね書店1周年記念フェアが行われています。◆無我夢中で突っ走ってきた1年余りでしたが、教会、ご近所の方々、福祉関係者、取次店、からしだね後援会、そして店を訪れてくださったお客様おひとりおひとりに、心より感謝いたします。◆行き届かないことや失敗を重ねながらではありましたが、書店をやってよかったとしみじみ思っております。◆たいへん遅くなりましたが、「キリスト教書店とわたし」という小冊子も1周年記念を機に発行いたします。原稿を寄せてくださった皆様には、忘れたところにご自分の書いた文章に再会していただくことになります。書店にも置いておきますので、よろしければご覧ください。◆いろいろなことが、あわただしく目まぐるしく変化していく時代にあって、とてもアナログな書店です。クレジットカードもPayPayも使えません。（導入を検討しましたが、薄利多売でない経営が成り立たない小さな書店では、カード会社に利益を全部持っていかれることが判明し、真っ青になって断念しました）ですが、いつも新鮮な書店であり続けたいと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル  
〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの  
バックナンバーはこちらから

